政治社会学会（ASPOS） 第４回総会及び研究大会プログラム

日時：2013年11月16日（土）～11月17日（日）
場所：千里金蘭大学　3号館　7階
主会場：3713教室

11月16日（土）＜第1日目＞　受付開始 8:30	
9:00～9：10	開会の辞　原田博夫（専修大学教授）
9:10～11:40	セッション１ 「社会デザインと政策実践」 司会：奥井克美（追手門学院大学教授） 報告者１：三石博行（千里金蘭大学教授）「設計科学としての政策学基礎論・生活資源論」（25分） 報告者２：水垣源太郎（奈良女子大学准教授）「学際的地域参加型研究（CBPR）と農業政策　―奈良県中山間地域の事例から」（25分） 報告者３：山口薫（同志社大学教授）「シカゴプラン（貨幣改革）による新社会デザイン」（25分） グループ・ディスカッション（60分）
11:40～12:30	昼食（3号館7階　3714教室） 理事会（3号館7階　3712教室） ポスターセッション（3号館7階　エレベーターホール）
12:30～13:00	総会
13:00～15:30	セッション２ 「教育と政治社会」 司会：石生義人（国際基督教大学教授） 報告者１：柳平彬（グループダイナミックス研究所所長）「“教育”基本法の中心に『志（こころざし）を』」（25分） 報告者２：森裕城（同志社大学教授）「日本における新自由主義的教育改革の政治社会学的考察」（25分） 報告者３：河村能夫（龍谷大学名誉教授）「グローバル化時代における日本の大学改革と高等教育の社会的責務　―京都における大学改革の経験から―」（25分） グループ・ディスカッション（60分）
15:30～15:45	休憩
15:45～16:45	基調講演 荒木義修（武蔵野大学教授）「神なき後の社会秩序と進化論：言語、恣意的約束事、遺伝子」 司会：油川洋（作新学院大学特任教授）
16:45～19:15	セッション３ 「社会デザインと民主主義」 司会：伊藤公雄（京都大学教授） 報告者１：住沢博紀（日本女子大学教授）「ドイツにおける民主主義」（25分） 報告者２：濱西栄司（ノートルダム清心女子大学専任講師）「自由空間と三つのデモクラシー　―アクターの連携と新たな社会デザイン―」（25分） 報告者３：境毅（生活クラブ京都エル・コープ）「官僚支配の超え方」（25分） グループ・ディスカッション（60分）
19:15～	懇親会（場所3号館7階　3714教室　会費：3000円）

11月17日（日）＜第2日目＞　受付開始 8:30	
9:00～11:30	セッション４ 「政策提言型会員公募セッション」 司会：新川達郎（同志社大学教授） 報告者１：金奈英（筑波大学博士後期課程）「政治体制変化と伴う経路依存過程の制度分岐の考察　―町内会・部落制度を中心に―」 報告者２：尾形清一（名古屋大学研究員）「再生可能エネルギー事業における科学的不確実性と社会的合意形成の課題　―風力事業のバードストライク問題を中心にして―」 報告者３：吉田龍太郎（慶応義塾大学博士後期課程）「政党再編と政策対立軸の模索

	一保守合同反対論とその後の日本政治—」 報告者4：西田昌之（国際基督教大学研究員）「津波復興住宅における生活再編の格差　ータイ国パンガー県タクワパー郡の事例ー」 討論者1：森裕亮（北九州市立大学准教授） 討論者2：田浦健郎（NPO法人気候ネットワーク事務局長） 討論者3：今村浩（早稲田大学教授） 討論者4：新川達郎（同志社大学教授）
11:30～12:15	昼食（3号館7階　3714教室） ポスターセッション（3号館7階　エレベーターホール）
12:15～13:30	基調講演 布野修司（滋賀県立大学教授）「地域再生とコミュニティ・アーキテクト」 司会：中村知子（茨城キリスト教大学兼任講師）
13:30～13:45	休憩
13:45～16:00	セッション5 「生存環境と政治社会」 司会：佐藤洋一郎（京都産業大学教授） 報告者1：松久寛（京都大学名誉教授）「縮小社会への道」（25分） 報告者2：宮北隆志（熊本学院大学教授）「環境破壊を経験した地域社会の再構築のための新たな統治と『水俣学』」（25分） 報告者3：森壮一（文部科学省研究開発局）「フューチャー・アース構想の理念と成立過程」（25分） グループ・ディスカッション（60分）
16:00～	閉会の辞　原田博夫（専修大学教授）

【ポスターセッション】
日時：11月16日（土）11:40～12:30
　　11月17日（日）11:30～12:15
場所：3号館7階　エレベーターホール

報告1：Aysun UYAR（アイスン ウヤル）（同志社大学助教）「Science-Society Interface for Global Change and Sustainability Issues inAsia」
報告2：村上紗央里（同志社大学博士後期課程）「公害と環境教育　ー公害資料関係者へのヒアリングを通じてー」
報告3：丸谷聡子（同志社大学博士後期課程）「自治体とのパートナーシップによる実践型環境教育の展開　ー民間型環境教育コーディネーターの視点からー」
報告4：小田切康彦（同志社大学助教）「地方自治体における震災避難者支援策の実態とその形成過程：長野県及び北九州市の実例から」
報告5：切東美子（同志社大学博士後期課程）「医師の進路選択に影響を与える要因と医師不足について」
報告6：切東美子・明神知（オージス総研）「電鉄沿線の活性化（安心、安全のライフサポートネットワークの構築に向けて）」
報告7：梅津庸成（新時代戦略研究所）「９１１後の変革期における防衛力整備の在り方検討に関する経緯とその現代的意義」

【グループ・ディスカッションについて】

この研究大会から、出席者全員が各セッションに参加したうえで、各テーマについての認識を深め、発言を促す観点から、GD（グループ・ディスカッション）方式を取り入れることとしました。GD方式導入の趣旨は研究大会で会員相互の情報交換と発言の機会を高めることが狙いです。

■GD方式の概要
１、セッションテーマと報告内容に即して、GDを約６０分間行う。
２、GDは約５人単位で構成する。
３、グループ分けは、大会受付けで行い、参加者は一日単位で同グループに所属する。
４、セッションごとにくじ引きでグループリーダーを決める。但し、一度リーダーになった人はくじ引きに参加しない。
５、グループリーダーはGDの活発な運営が行われるよう努力する。また、最後にGDの内容を全体に簡単に報告する。

GD方式を学会に導入するのは恐らく日本の学会では初めての試みだと思います。大会参加者の活発な意見交換を企画した今回の学会をご期待ください。また、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価に
また、学会当日、GD参加マニュアルとGD評価に関するアンケートを配布します。